第４学年３組　国語科学習指導案

平成２１年６月９日（火）第４校時
授業者　教諭

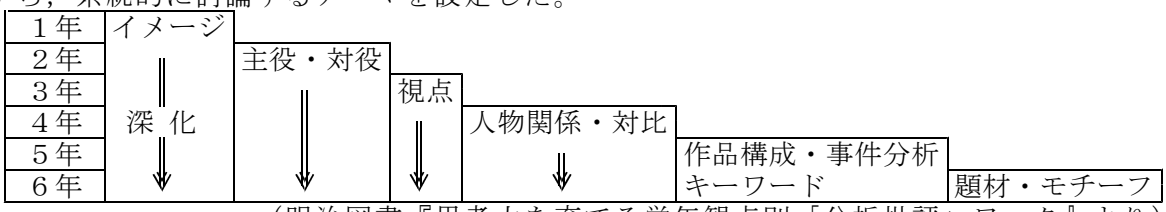
１　単元名　　詩を読み取ろう（題材『かがやき』『春のうた』）

２　単元の目標
・詩の語り手の視点の位置を考え，情景や登場人物の心情を想像する。（読む）
・詩を声に出して読み，詩のリズムを味わう。（読む）

３　単元について
昨年度の福井県学力調査の結果分析や成和中学校区小中連携学力向上部会の校区内学力分析で，文学的教材の読解力不足が指摘された。平成１７年，文科省は「読解力向上プログラム」を設定し，４つのPISA型読解力の不足を指摘した。そこでは「解釈・分析する能力」「自分の意見を論じる能力」「構造形式を評価する能力」の向上が必要とされた。詩や文学的教材の学習の中で読解力の向上を図りたい。
『かがやき』は，２行１連の３連で構成される詩だが，壮大で美しい情景を目の前に浮かばせ，日の出のまぶしさと明るさと喜びを伝えてくる。この詩の中の平易な言葉に改めて立ち止まり，言葉の裏に潜む情景を描き出させたい。
『春のうた』は，生き生きとしたまぶしいような明るさに満ちた，ほのぼのとした詩である。子どもにとって親しみやすいかえるの詩でもある。春になって初めて地上に出たかえるの視点で，喜びや驚きが表現されている。「ケルルンクック」のように人間の感覚や言葉では表現できないかえるの気持ちを，言葉一つ一つかみしめながら読み深めたい。
また，２編とも読み取った情景をもとにリズム感や歯切れの良さを楽しみながら読みたい詩である。

４　児童について
男子２０名，女子１６名の穏やかなクラスである。優しく素直な児童が多く落ち着いて学習に臨んでいる。聞き取ったことの理解も早い児童が多い。反復的な活動もしっかりと繰り返すことができる。しかし，素直な反面，事象を分析的に見たり追求して考えたりする意識が弱く，他の意見を鵜呑みにする傾向が見られる。
読むことの学習は『３つのお願い』『「かむ」ことの力』の２教材で行った。文学的教材では登場人物の心情を読み取り，説明的教材では要点を読み取る学習をした。しかし，教材中のキーワードや接続語などに着目して考えを構成できたのは数名であった。

５　指導について
読解力向上のために，文中から根拠を探し討論する活動を含んだ「学び合い高め合い」の授業を繰り返し行っていきたい。文中から根拠を探し討論するためには，テーマが必要である。
テーマとしては，「イメージ」「主役」「対訳」「視点」「人物関係」「対比」「キーワード」「題材」「モチーフ」「作品構成」「事件分析」等が考えられる。６年間の中で，これらのテーマを通じて繰り返し討論の授業をし，読解力を高めたい。そこで，各学年の発達段階を考慮しながら，系統的に討論するテーマを設定した。



（明治図書『思考力を育てる学年観点別「分析批評」ワーク』より）

第４学年では，「イメージ」「主役」「対訳」「視点」「人物関係」「対比」をテーマとして，『三つのお願い』『かがやき』『春のうた』『白いぼうし』『一つの花』『ごんぎつね』で読解力向上を図りたい。また，題材とテーマの組み合わせもマッチングを考えながら計画したい。
本単元で学習する２編の詩は「視点」をテーマに討論するのに適した構成で書かれている。そこで，本単元では詩の語り手の「視点」の位置をテーマとする。
活動では，それぞれの詩の中で語り手が見ているものを書き出したり，簡単な絵で視点の位置を描いたりしながら状況を確認しつつ，「視点」の位置を話題の中心にしていく。そして，子ども達が考える視点の位置の違いを討論する。討論では，それぞれの考えを理由も付けてしっかりと言えるよう指導したい。その繰り返しの中で，文中から根拠を探し説明する力を付けたい。
なお，現段階では子ども達に「視点」の位置を探す感覚が育ってないため，総合的な学習の時間の中で簡単な文章を用い「視点」を探しながら文中から根拠付けをする練習をしておく。

6　指導計画（３時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価規準
1	詩『かがやき』の語り手の「視点」の位置を話し合う。	詩『かがやき』が表す情景を文中の言葉を根拠にしながら読み取ることができる。				○		(読)詩『かがやき』の語り手の視点の位置を，文中の言葉を根拠に理由付けしながら書くことができる。
2 本時	詩『春のうた』の語り手の「視点」の位置を話し合う。	詩『春のうた』が表す情景を文中の言葉を根拠にしながら読み取ることができる。				○		(読)詩『春のうた』の語り手の視点の位置を，文中の言葉を根拠に理由付けしながら書くことができる。
3	詩『かがやき』『春のうた』や春に関する６編の詩をいろいろな方法で音読する。	詩『かがやき』『春のうた』や春に関する６編の詩を言葉のリズムを楽しみながら読むことができる。				○		(読)好きな詩を見つけ，声に出して詩を読み，言葉のリズムを楽しもうとすることができる。

7　本時の目標
『春のうた』の詩が表す情景を文中の言葉を根拠にしながら読み取ることができる。

8　準備物
情景を描いた絵（板書用），児童用ワークシート

9　本時の学習過程

学習活動	支援（・）と評価（☆）
○『春のうた』を追い読み，１行読み，男女読みなど読み方を変えながら読む。	・テンポよく進める
○作者や語り手，語り手のかえるに見えるものを考え確認する。 かえるはどこにいるのでしょう。	・考えを発表させ，いろいろな意見を認めながら，明らかに不適当なものを削る。
○かえるが見たものとかえるの「視点」の位置を絵で描き，理由を文章で書く。	・詩の中の言葉を根拠として視点を考えていることを認めながら，個別に支援する。
○考えを発表し，意見の違いをふまえて討論する。 ・「ほっ まぶしいな」と書いてあるので，たった今地面から顔を出したところだと思う。 ・体全部が出ていたら，「まぶしいな」と言わないだろう。 ・「かぜはそよそよ」と書いてあるので，風に顔を当てているのだろう。	・出た意見の中で明らかに不適当な物を削ったり，似た意見をまとめたりして，意見を絞る。 ・事前に指導してきた発言の仕方や聞き方を確認しながら進める。 ・根拠を簡潔に板書する。
○最終的な自分の考えを，根拠をはっきりさせながら書く。 ○情景を想像しながら声に出して読む。	☆『春のうた』の語り手の視点の位置を，文中の言葉を根拠に理由付けしながら書くことができる。 （ワークシート…読）

10　授業の観点
・読解力の向上のために「視点」の位置を話し合わせたことは有効であったか。
・「視点」を話し合うためにかえるに見えるものやかえるの位置を絵に描かせたことは有効であったか。